

平成 30 年度 第 11 回広島市感染症対策協議会

平成 31 年 3 月 18 日

- 【日 時】 平成 31 年 3 月 18 日（月）19:00～20:00
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、坂口 剛正、石川 暢久、吉岡 宏治、堂面 政俊、増田 裕久、
藤本 三喜夫、安井 耕三、松原 啓太

1 感染症に関する最近の情報《公開》

(1) 成人男性に対する風しんの抗体検査及び予防接種事業について（資料 1 P1～8）

平成 31 年 2 月、予防接種法施行令及び特定感染症検査等事業実施要綱が改正され、2022 年 3 月 31 日までの間に限り、風しんに係る公的接種を受ける機会がなかった昭和 37 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日までの間に生まれた男性を対象に、原則無料で抗体検査を実施し、その結果十分な抗体を有していないと判定された者に対して予防接種を行うことが規定された。

国においては、本事業の実施により、対象者の抗体保有率を現在の 80%から 2020 年 7 月までに 85%に、2021 年度末までに 90%に引き上げることを目標としている。

本市においても、4 月中旬頃に、上記対象者のうち昭和 47 年 4 月 2 日から昭和 54 年 4 月 1 日に生まれた者へ抗体検査及び予防接種を受ける際に必要となるクーポン券を送付する予定としており、ホームページ等により積極的な周知を行っていく。

（委員意見）

成人男性に対する風しんの抗体検査及び予防接種事業については、制度や対象者が複雑であるため、市民や医療機関へできるだけわかりやすく周知してほしい。

(2) 梅毒迅速検査の導入について（資料 1 P9～24）

本市における平成 30 年の梅毒患者の報告数は 105 件（速報値）と平成 29 年の報告数 62 件を大幅に上回り、過去最多の報告数となった。また、全国の報告数も 7,001 件と過去最多となっており、東京都 1,785 件、大阪府 1,188 件が目立つが、広島県も 178 件と全国で 7 番目に多い状況である。

現在、本市の保健センターで実施している梅毒検査は、結果通知までに約 1 週間を要し、また原則非匿名での受検となっているが、昨今の患者の急増を受け、受検者の利便性を考慮し、平成 31 年度から無料・匿名の迅速検査（TP 抗体のスクリーニング検査）を導入することとした。

これにより、これまで受検を躊躇していた者等の新たな受検が期待できるとともに、陽性が判明し梅毒感染が疑われる者に対して、より速やかに医療機関への受診誘導が可能となる。

引き続き、保健センターで実施する梅毒検査について、ホームページ等により積極的な周知を行っていく。

（委員意見）

保健センターでの迅速検査の導入は、梅毒対策として一步前進したと思われるが、引き続き受検者が検査を受けやすい環境づくりに努めてほしい。

(3) 平成31年度以降の肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る。）の定期接種の対応について（資料 1 P25）

肺炎球菌感染症（高齢者がかかるものに限る。）の定期の予防接種（以下「定期接種」という。）については、平成31年1月11日付け国通知により、平成31年4月1日から平成36年3月31日についても、当該年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳又は100歳を迎える者に対し定期接種の対象者とする旨情報提供があったところである。今般、パブリックコメントにおける意見及び厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会

予防接種基本方針部会における議論を踏まえ、平成31年度中においては、平成30年度末に100歳以上の者についても、定期接種の対象とすることとなった旨、追加で情報提供があった。

本市においては、平成31年度についても7月1日から定期接種を開始する予定であり、引き続き、制度趣旨についての積極的な啓発を行っていく。

(委員意見)

特になし。

2 2月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》 ()は届出日

区分	病名	平成31年2月分	平成31年3月分
		報告日 2/4~3/3	報告日 3/4~3/15 現在
2類	結核	21人 (結核13人、潜在性結核8人)	4人
4類	A型肝炎	1人 (2/28)	
	デング熱		1人 (3/11)
	レジオネラ	2人 (2/18、3/1)	
5類	ウイルス性肝炎		1人 (3/5)
	急性脳炎		1人 (3/5)
	後天性免疫不全症候群	1人 (2/8)	
	侵襲性肺炎球菌感染症	4人 (2/4、2/5、2/20、2/22)	3人 (3/4、3/5、3/11)
	梅毒	4人 (2/14、2/22、2/23、3/1)	3人 (3/4、3/4、3/6)
	播種性クリプトコッカス症		1人 (3/5)
	百日咳	5人 (2/6、2/14、2/14、2/18、2/20)	3人 (3/6、3/14、3/14)
風しん	3人 (2/7、2/12、2/14)		

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成31年4月15日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：2月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（3月分）

平成31年3月18日

1 患者情報

(1) 概要

定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、2月は3,404人で、前月比0.47と大きく減少した。

伝染性紅斑は増加、RSウイルス感染症はやや増加、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘はほぼ横ばい、感染性胃腸炎、突発性発しんはやや減少、インフルエンザは大きく減少した。

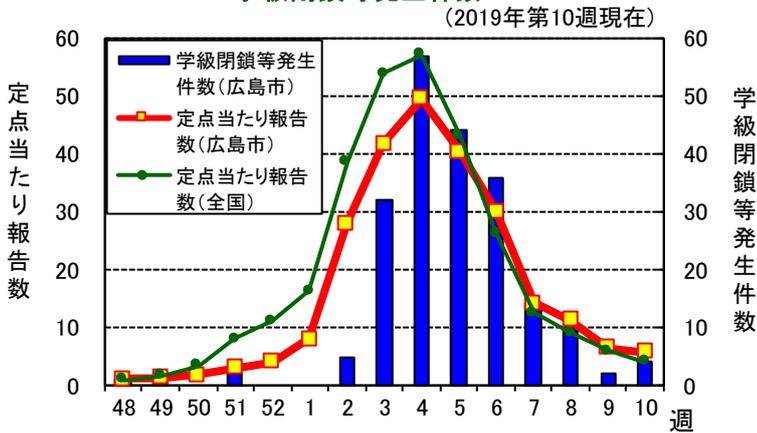
(2) 特記事項

- インフルエンザは、第4週(1月21日～1月27日)に定点当たり49.6人と今シーズンの流行のピークを迎えた。その後は減少し、第9週には注意報レベル(定点当たり10.0人)を下回り、第10週(3月4日～3月10日)時点で定点当たり5.73人となっている。流行は終息傾向にあるが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は第10週に4件報告されており、引き続き、感染予防対策を心がける必要がある。

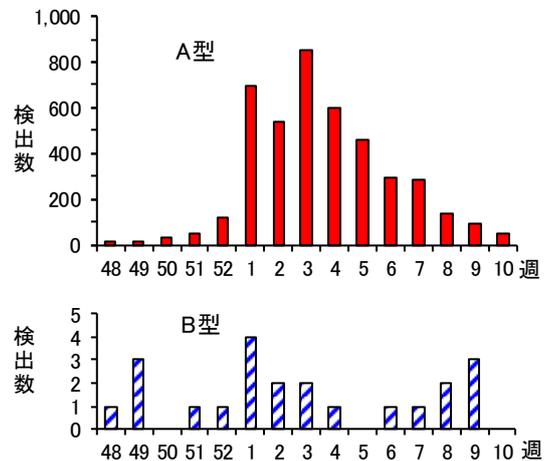
基幹病院2か所による迅速診断キット検査結果の今シーズン累計は、A型4,317件、B型23件とA型が99.5%を占めており、B型はシーズンを通して少ない状況となっている。また、広島市衛生研究所による遺伝子検査では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H3)型が29件、インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型が25件、B型インフルエンザウイルス(ビクトリア系統)が2件検出されている(3月10日現在)。

- 昨年7月以降、全国で風しんの流行が続いており、広島市でも昨年は16件、今年は第10週現在で5件報告されている。また、関西地方で麻しんの患者が増加しており、全国では第1週～第10週にかけて304件報告されている。広島市では、2015年以降、麻しん患者の報告はないが、注意が必要である。感染予防には、麻しん風しん混合ワクチンによる2回の定期予防接種の徹底が最も重要である。また、風しんや麻しんにかかったことがなく、ワクチン接種を1回も受けていない人は、ワクチン接種の検討が必要である。

インフルエンザ定点当たり報告数と
学級閉鎖等発生件数



インフルエンザ迅速診断キット検査結果
(2019年第10週現在)



(3) 2月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 21件（患者：13件、潜在性結核：8件）
- 3類感染症：なし
- 4類感染症：A型肝炎 1件 レジオネラ症 2件
- 5類感染症：後天性免疫不全症候群 1件 侵襲性肺炎球菌感染症 4件
梅毒 4件 百日咳 5件 風しん 3件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行終息傾向】
- 感染性胃腸炎・・・【流行中】

2 検査情報

2月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	1月	3人
	インフルエンザウイルス A(H3)型	1月	2人
	B型インフルエンザウイルス	1月	1人
咽頭結膜熱	アデノウイルス 3型	1月	1人
	ヒトメタニューモウイルス	1月	1人
感染性胃腸炎	A群ロタウイルス	1月	2人
感染性胃腸炎・インフルエンザ	ノロウイルス GⅡ	1月	1人
その他の呼吸器疾患(気管支炎)・その他の消化器疾患	*アデノウイルス 2型	1月	1人
	*ライノウイルス		
その他の呼吸器疾患(扁桃炎)	ライノウイルス	1月	1人
その他の疾患	ライノウイルス	1月	1人

*: 複数病原体検出例

特記事項

14人の患者から9種類のウイルス15株が検出された。検出ウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009型及びライノウイルス各3株、インフルエンザウイルス A(H3)型及びA群ロタウイルス各2株、アデノウイルス2型、同3型、B型インフルエンザウイルス、ノロウイルス GⅡ及びヒトメタニューモウイルス各1株であった。

5類感染症定点情報
(平成31年2月解析分)

1. 週報対象(第6週～第9週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		2,266	62.05		10	流行性耳下腺炎		14	0.59	
2	咽頭結膜熱		21	0.89		11	RSウイルス感染症		64	2.69	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		263	11.07		12	急性出血性結膜炎		1	0.13	
4	感染性胃腸炎		654	27.59		13	流行性角結膜炎		8	1.00	
5	水痘		26	1.11		14	細菌性髄膜炎		1	0.14	
6	手足口病		2	0.08		15	無菌性髄膜炎		2	0.28	
7	伝染性紅斑		34	1.42		16	マイコプラズマ肺炎		2	0.28	
8	突発性発しん		17	0.73		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		1	0.04		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		7	1.00	

2. 月報対象(2月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		36	4.00
2	性器ヘルペスウイルス感染症		15	1.67
3	尖圭コンジローマ		12	1.33
4	淋菌感染症		9	1.00
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		18	2.57
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0.29
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		1	0.14

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成31年2月分)

第6週～第9週(2月4日～3月3日)報告分

類型	疾患名	広島市		全国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ベスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	21	33	1,658	3,140
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	-	-
	16 細菌性赤痢	-	-	7	14
	17 腸管出血性大腸菌感染症	-	-	98	183
	18 腸チフス	-	-	3	6
	19 パラチフス	-	-	1	3
四類	20 E型肝炎	-	-	31	65
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	1	3	31	91
	23 エキノコックス症	-	-	-	1
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	3	5
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	-	-
	28 キャサナル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	-
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	1
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	2
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	-
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	1	1
	40 つつが虫病	-	-	5	40
	41 デング熱	-	-	17	49
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	-	3	4
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	-
	51 ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	-
55 マラリア	-	-	1	5	
56 野兔病	-	-	-	-	
57 ライム病	-	-	-	-	
58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-	
59 リフトバレー熱	-	-	-	-	
60 類鼻疽	-	-	-	-	
61 レジオネラ症	2	3	109	239	
62 レプトスピラ症	-	-	-	-	
63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-	
五類	64 アメーバ赤痢	-	-	74	133
	65 ウイルス性肝炎	-	1	23	54
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	1	156	329
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	6	11
	68 急性脳炎	-	4	103	277
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	-	-
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	15	25
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	1	85	182
	72 後天性免疫不全症候群	1	1	88	166
	73 ジアルジア症	-	-	5	6
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	36	120
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	4	12
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	4	5	261	679
	77 水痘(入院例に限る。)	-	-	32	70
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	1
79 梅毒	4	12	541	998	
80 播種性クリプトコックス症	-	-	11	24	
81 破傷風	-	-	5	8	
82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-	
83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	5	13	
84 百日咳	5	10	1,292	2,651	
85 風しん	3	5	401	768	
86 麻しん	-	-	137	285	
87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	5	